



■ テーマ名

医療ソーシャルワーク実践モデルの開発

■ キーワード

ソーシャルワーク実践モデル、医療ソーシャルワーク、周産期医療、社会福祉士

■ 研究の概要

人間は自分の望む生活を営むために日々の生活課題を様々な内的・外的資源を活用して達成している。傷病の発生やその治療は、新たな生活課題を生み出すきっかけとなることが多い。保健医療サービスを利用しつつ生活するということは、新たな生活課題に直面しつつそれを達成していくプロセスでもある。医療の場において機能するソーシャルワークは、保健医療サービスを利用しつつ人がつづがなく生活できるように支援することである。

本研究においては、芝野松次郎氏の提唱する MD & D の研究手法でソーシャルワークの包括的実践理論と限定的実践理論から導き出された実践モデルを開発し、それを実践に活用することで実践モデルをさらに洗練された標準的な内容にしていくことを目指している。

ハイリスク新生児への医療ソーシャルワーク実践モデルとして、「援助手続きの枠組み」を開発し、援助を、かかわりの局面としての横軸と 13 の構成要素である縦軸とで表現することで可視化できるようにした。

すでに、ハイリスク新生児への医療ソーシャルワーク実践モデルを開発し、2010 年から現在まで年に 1 回、周産期医療に携わっているソーシャルワーカーに実践モデルについての研修を行っている。同時に、ICT（情報通信技術）を活用して「ハイリスク児医療ソーシャルワークナビシステムスキルアップトレーニング」を開発した。今後はスーパービジョンの場で活用してもらいながらさらに洗練されたものにしていくと同時に、ソーシャルワークの実践モデルを汎用性の高いモデルに改良しつつ普及を行っていく予定である。

■ 他の研究／技術との相違点

実践モデルの活用で、ソーシャルワーク実践が援助の構成要素ごとに言語化でき可視化でき実践上の課題が明らかになると同時に、実践の内容を他職種と同職種に伝達しやすくなり実践の質を確実に高めることができる。ICT を活用してデータの蓄積を可能とし複数のユーザーとのコミュニケーションが可能となった。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

援助の構成要素やかかわりの局面を、対象者ごと（例としてハイリスク新生児や移植患者など）に集約し、マニュアルの開発を行い、スキルアップの手法を開発しソーシャルワーカーの効果的な援助の標準化を図る。そしてソーシャルワークの専門的な技能の可視化を可能とし、伝達可能なツールとして実用化していく。

■ 関連業績（特許・文献）

宮崎清恵「ハイリスク児医療ソーシャルワークナビシステムスキルアップトレーニング」株式会社ナナイロ 2016年3月

宮崎 清恵「周産期医療の場から始まる継続したソーシャルワークー地域と医療機関をつなぐ社会福祉士の役割-」社会福祉研究第 125 号 2016 年 4 月

■ 研究者から一言

生活課題に取り組む人間への生活支援を行う専門的な社会福祉実践者（ソーシャルワーカー）の資質向上に役立つための研究をさらに進めていくと同時に多くの研修やスーパービジョンを行っていく予定である。